

第 34 回法人会全国大会福井大会見聞録

会長 田島淳次

初秋の北陸路はまだ紅葉の気配もなく、今夏の猛暑と集中的な雨量のためか、青葉が車窓を飾っておりました。何度か訪れた福井市で有りますが、駅ビルに象徴されるように北陸新幹線の延伸計画に合わせて、近代的なビル群に将来の経済効果が期待されます。しかしながら福井県は昔から繊維産業が有名ですが、徳島県と、さほど人口差はなく式典会場の福井県産業会館は建物も古く、体育館の様相で御世辞にも立派とは言い難いものでした。平成 29 年 10 月 5 日全国から 410 単位会 1,754 名が参加され、会場の外に設営されたテントでは物産展が開催されて、ご当地産品が所狭しと並び盛況でした。

午後二時から第一部記念講演会が始まり、講師として毎日新聞専門編集委員の時折テレビでコメンテーターとして拝見します与良正男氏が「今後の政治と経済の行方」という演題で話されました。今注目の小池都知事とは古くから知り合いで、大喧嘩をした仲でもあるらしく、しかしながら皆さんが期待した選挙の情勢は、この状況下で微妙な時期なのか、残念ながら核心に触れたお話はありませんでした。

第二部式典は佐川国税庁長官を始め西川福井県知事等、多数のご来賓をお迎えして、盛大に挙行され、最後に次期開催地の鳥取県連会長の閉会の挨拶と鳥取紹介ビデオが上映され幕を閉じました。

全法連の小林栄三会長（伊藤忠商事会長）は福井県の小浜市のご出身だそうで、地元にとっても良き PR になったようです。

第三部懇親会は会場を隣の建物に移動し、福井の海の幸・山の幸を堪能し、酒処の県だけに冷酒コーナーには格別の行列が有りました。福井市は映画にもなった「チアダン」チアガールダンスコンテストの日本代表で全米チャンピオンになった福井商業高校がありますので、それを期待しておりましたが残念ながら、地味な左義長の伝統的な踊りと書家の恐竜の絵を描くというパフォーマンスだけでした。

今更ながら自画自賛ではないですが、一昨年徳島大会懇親会での娯茶平連の阿波踊りの盛り上がりが目につかび、何物にも例えがたい阿波踊りの素晴らしさが再認識された思いです。

大会に参加するたびに感じることは、税に対する意識改革が少しずつではありますが、青年部会の租税教育活動や女性部会の税に関する絵はがきコンクール・作文コンクールが広く浸透し、将来の日本に対する認識が子供達にも伝わっていることに、感銘を受けます。

当法人会も臆することなく、地道に活動を継承し徳島県連諸共に協力し合い、将来のリーダーを育て発展する地域にする思いで、福井を後にしました。